

## ⑥別添 住宅の仕様基準案

## 外壁、窓等を通しての熱の損失の防止に関する基準案(戸建)

# 外皮の熱貫流率(U値)の基準案(戸建、木造・鉄骨造)

単位：W/(m<sup>2</sup>・K)

構造	部位	省エネ基準					誘導基準(新仕様案)				
		1～2地域	3地域	4地域	5～7地域	8地域	1～2地域	3地域	4地域	5～7地域	8地域
外皮平均熱貫流率 (8地域は冷房期の 平均日射熱取得率)		0.46	0.56	0.75	0.87	(6.7)	0.40	0.50	0.60	(6.7)	
木造 ・ 鉄骨造	屋根又は天井	0.17	0.24	0.24	0.99		0.17	0.22	0.22	0.99	
	壁	0.35	0.53	0.53			0.28	0.44	0.44		
	床	外気に接する部分	0.24	0.24	0.34			0.24	0.24	0.34	
		その他の部分	0.34	0.34	0.48			0.34	0.34	0.48	
	土間床等の外周部分の基礎壁	外気に接する部分	0.27	0.27	0.52			0.27	0.27	0.52	
		その他の部分	0.71	0.71	1.38			0.67	0.67	1.01	

# 外皮の熱貫流率(U値)の基準案(戸建、鉄筋コンクリート造等)

単位：W/(m<sup>2</sup>・K)

構造	部位	断熱材の 施工法	省エネ基準(現行仕様)					省エネ基準(新仕様案)					誘導基準(新仕様案)				
			1~2 地域	3 地域	4 地域	5~7 地域	8 地域	1~2 地域	3 地域	4 地域	5~7 地域	8 地域	1~2 地域	3 地域	4 地域	5~7 地域	8 地域
外皮平均熱貫流率 (8地域は冷房期の平均日射熱取得率)			0.46	0.56	0.75	0.87	(6.7)	0.46	0.56	0.75	0.87	(6.7)	0.40	0.50	0.60	(6.7)	
RC造	屋根又は天井	内断熱	0.27	0.35	0.37	1.18	0.11	0.18	0.18	1.18	0.11	0.16	0.16	1.18			
		外断熱	0.32	0.41	0.43	1.26	0.09	0.16	0.16	1.26	0.09	0.14	0.14	1.26			
		両面断熱					0.17	0.24	0.24	1.26	0.17	0.22	0.22	1.26			
	壁	内断熱	0.39	0.49	0.75		0.18	0.35	0.35		0.11	0.26	0.26				
		外断熱または 両面断熱	0.49	0.58	0.86		0.33	0.51	0.51		0.26	0.42	0.42				
	床	外気に 接する 部分	内断熱または 両面断熱	0.27	0.32	0.37		0.18	0.18	0.39		0.18	0.18	0.39			
			外断熱					0.08	0.08	0.29		0.08	0.08	0.29			
		その他 の部分	内断熱または 両面断熱	0.38	0.46	0.53		0.31	0.31	0.61		0.31	0.31	0.61			
			外断熱					0.16	0.16	0.46		0.16	0.16	0.46			
	土間床 等の外 周部分 の基礎 壁	外気に 接する 部分	内断熱、 外断熱または 両面断熱	0.52	0.62	0.98		0.27	0.27	0.52		0.27	0.27	0.52			
		その他 の部分	内断熱、 外断熱または 両面断熱	1.38	1.60	2.36		0.71	0.71	1.38		0.67	0.67	1.01			

※両面断熱の基準値は新規設定

# 断熱材の熱抵抗(R値)の基準案(戸建、木造(充填断熱工法))

単位：m<sup>2</sup>・K/W

構造	部位		省エネ基準				誘導基準(新仕様案)			
			1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域
木造 (充填)	屋根又は 天井	屋根	6.6 (251mm)	4.6 (175mm)	4.6 (175mm)	0.96 (38mm)	6.9 (263mm)	5.7 (217mm)	5.7 (217mm)	1.0 (38mm)
		天井	5.7 (217mm)	4.0 (152mm)	4.0 (152mm)	0.78/0.89 (31/35mm)	5.7 (217mm)	4.4 (168mm)	4.4 (168mm)	0.8 (31mm)
	壁		3.3/3.6 (126/137mm)	2.2/2.3 (84/88mm)	2.2/2.3 (84/88mm)		4.0 (152mm)	2.7 (103mm)	2.7 (103mm)	
	床	外気に接 する部分	5.2/4.2 (198/160mm)	5.2/4.2 (198/160mm)	3.3/3.1 (126/118mm)		5.0 (190mm)	5.0 (190mm)	3.4 (130mm)	
		その他 の部分	3.3/3.1 (126/118mm)	3.3/3.1 (126/118mm)	2.2/2.0 (84/76mm)		3.3 (126mm)	3.3 (126mm)	2.2 (84mm)	
	土間床等 の外周部 分の基礎 壁	外気に接 する部分	3.5 (98mm)	3.5 (98mm)	1.7 (48mm)		3.5 (98mm)	3.5 (98mm)	1.7 (48mm)	
		その他 の部分	1.2 (34mm)	1.2 (34mm)	0.5 (14mm)		1.2 (34mm)	1.2 (34mm)	0.7 (20mm)	

※現行仕様で併記している数値は、軸組/枠組壁の基準値。括弧内の参考値は、高性能グラスウール16K相当(λ=0.038W/m・K、基礎壁を除く)、押出法ポリスチレンフォーム保温板3種(λ=0.028W/m・K、基礎壁)とした場合に必要の厚さ

# 断熱材の熱抵抗(R値)の基準案(戸建、木造・鉄骨造(外張断熱工法・内張断熱工法))

単位：m<sup>2</sup>・K/W

構造	部位	省エネ基準				誘導基準(新仕様案)				
		1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域	
木造 ・ 鉄骨造  (外張 ・ 内張)	屋根又は天井	5.7 (160mm)	4.0 (112mm)	4.0 (112mm)	0.78 (23mm)	6.3 (177mm)	4.8 (135mm)	4.8 (135mm)	0.9 (26mm)	
	壁	2.9 (82mm)	1.7 (48mm)	1.7 (48mm)		3.8 (107mm)	2.3 (65mm)	2.3 (65mm)		
	床	外気に接する部分	3.8 (107mm)	3.8 (107mm)	2.5 (70mm)		4.5 (126mm)	4.5 (126mm)	3.1 (87mm)	
		その他の部分								
	土間床等の外周部分の基礎壁	外気に接する部分	3.5 (98mm)	3.5 (98mm)	1.7 (48mm)		3.5 (98mm)	3.5 (98mm)	1.7 (48mm)	
		その他の部分	1.2 (34mm)	1.2 (34mm)	0.5 (14mm)		1.2 (34mm)	1.2 (34mm)	0.7 (20mm)	

※括弧内の参考値は、押出法ポリスチレンフォーム保温板3種(λ=0.028W/m・K)とした場合に必要な厚さ

# 断熱材の熱抵抗(R値)の基準案(戸建、鉄骨造(充填断熱工法)の壁)

単位：m<sup>2</sup>・K/W

構造	外装材の熱抵抗	一般部の断熱層を貫通する金属部材の有無	断熱材を施工する箇所の区分	省エネ基準				誘導基準(新仕様案)			
				1～2地域	3地域	4～7地域	8地域	1～2地域	3地域	4～7地域	8地域
鉄骨造(充填)	0.56以上 (誘導基準は0.5以上)	無	柱、梁	1.91 (107mm)	0.63 (36mm)	0.08 (5mm)		1.2 (68mm)	1.2 (68mm)	1.2 (68mm)	
			一般部	2.12 (81mm)	1.08 (42mm)	1.08 (42mm)		3.0 (114mm)	1.7 (65mm)	1.7 (65mm)	
		有	一般部	3.57 (136mm)	2.22 (85mm)	2.22 (85mm)		3.2 (122mm)	2.7 (103mm)	2.7 (103mm)	
			金属部材	0.72 (28mm)	0.33 (13mm)	0.33 (13mm)		1.4 (54mm)	0.9 (35mm)	0.9 (35mm)	
	0.15以上 0.56未満 (誘導基準は0.1以上0.5未満)	無	柱、梁	1.91 (107mm)	0.85 (48mm)	0.31 (18mm)		1.6 (90mm)	1.6 (90mm)	1.6 (90mm)	
			一般部	2.43 (93mm)	1.47 (56mm)	1.47 (56mm)		3.4 (130mm)	2.1 (80mm)	2.1 (80mm)	
		有	一般部	3.57 (136mm)	2.22 (85mm)	2.22 (85mm)		3.6 (137mm)	3.2 (122mm)	3.2 (122mm)	
			金属部材	1.08 (42mm)	0.50 (19mm)	0.50 (19mm)		1.8 (69mm)	1.4 (54mm)	1.4 (54mm)	
	0.15未満 (誘導基準は0.1未満)	無	柱、梁	1.91 (107mm)	1.27 (72mm)	0.63 (36mm)		1.7 (96mm)	1.7 (96mm)	1.7 (96mm)	
			一般部	3.00 (114mm)	1.72 (66mm)	1.72 (66mm)		3.5 (133mm)	2.2 (84mm)	2.2 (84mm)	
		有	一般部	3.57 (136mm)	2.22 (85mm)	2.22 (85mm)		3.7 (141mm)	3.3 (126mm)	3.3 (126mm)	
			金属部材	1.43 (55mm)	0.72 (28mm)	0.72 (28mm)		1.9 (73mm)	1.5 (57mm)	1.5 (57mm)	

※括弧内の参考値は、吹付けロックウール(λ=0.056W/m・K、柱、梁)、高性能グラスウール16K相当(λ=0.038W/m・K、柱、梁を除く)とした場合に必要な厚さ

# 断熱材の熱抵抗(R値)の基準案(戸建、鉄筋コンクリート造等)

単位：m<sup>2</sup>・K/W

構造	部位	断熱材の 施工法	省エネ基準(現行仕様)				省エネ基準(新仕様案)				誘導基準(新仕様案)			
			1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域
RC造	屋根又は天井	内断熱	3.6 (101mm)	2.7 (76mm)	2.5 (70mm)	0.62 (20mm)	8.9 (250mm)	5.4 (152mm)	5.4 (152mm)	0.7 (20mm)	8.9 (250mm)	6.1 (171mm)	6.1 (171mm)	0.7 (20mm)
		外断熱	3.0 (84mm)	2.2 (62mm)	2.0 (56mm)	0.57 (17mm)	10.9 (306mm)	6.1 (171mm)	6.1 (171mm)	0.6 (17mm)	10.9 (306mm)	7.0 (196mm)	7.0 (196mm)	0.6 (17mm)
		両面断熱					5.7 (160mm)	4.0 (112mm)	4.0 (112mm)	0.6 (17mm)	5.7 (160mm)	4.4 (124mm)	4.4 (124mm)	0.6 (17mm)
	壁	内断熱	2.3 (65mm)	1.8 (51mm)	1.1 (31mm)		5.4 (152mm)	2.7 (76mm)	2.7 (76mm)		8.9 (250mm)	3.7 (104mm)	3.7 (104mm)	
		外断熱または 両面断熱	1.8 (51mm)	1.5 (42mm)	0.9 (26mm)		2.8 (79mm)	1.8 (51mm)	1.8 (51mm)		3.7 (104mm)	2.2 (62mm)	2.2 (62mm)	
	床	外気に接 する部分	内断熱または 両面断熱	3.2 (90mm)	2.6 (73mm)	2.1 (59mm)		5.3 (149mm)	5.3 (149mm)	2.3 (65mm)		5.3 (149mm)	5.3 (149mm)	2.3 (65mm)
			外断熱					12.3 (345mm)	12.3 (345mm)	3.2 (90mm)		12.3 (345mm)	12.3 (345mm)	3.2 (90mm)
		その他 の部分	内断熱または 両面断熱	2.2 (62mm)	1.8 (51mm)	1.5 (42mm)		2.9 (82mm)	2.9 (82mm)	1.3 (37mm)		2.9 (82mm)	2.9 (82mm)	1.3 (37mm)
			外断熱					5.9 (166mm)	5.9 (166mm)	1.8 (51mm)		5.9 (166mm)	5.9 (166mm)	1.8 (51mm)
	土間床 等の外 周部分 の基礎 壁	外気に接 する部分	内断熱、 外断熱または 両面断熱	1.7 (48mm)	1.4 (40mm)	0.8 (23mm)		3.5 (98mm)	3.5 (98mm)	1.7 (48mm)		3.5 (98mm)	3.5 (98mm)	1.7 (48mm)
		その他 の部分	内断熱、 外断熱または 両面断熱	0.5 (14mm)	0.4 (12mm)	0.2 (6mm)		1.2 (34mm)	1.2 (34mm)	0.5 (14mm)		1.2 (34mm)	1.2 (34mm)	0.7 (20mm)

※両面断熱の基準値は新規設定  
 ※括弧内の参考値は、押出法ポリスチレンフォーム保温板3種(λ=0.028W/m・K)とした場合に必要の厚さ



# 開口部の熱貫流率と日射遮蔽対策の基準案(戸建住宅)

## 現行仕様

地域の区分	開口部比率の区分	開口部比率	熱貫流率の基準値 (W/(m <sup>2</sup> ・K))	日射遮蔽対策の基準
1～3地域	(い)	0.07未満	2.91	
	(ろ)	0.07以上0.09未満	2.33	
	(は)	0.09以上0.11未満	1.90	
	(に)	0.11以上	1.60	
4地域	(い)	0.08未満	4.07	
	(ろ)	0.08以上0.11未満	3.49	
	(は)	0.11以上0.13未満	2.91	
	(に)	0.13以上	2.33	
5～7地域	(い)	0.08未満	6.51	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガラスの日射熱取得率が0.74以下であるもの</li> <li>付属部材又はひさし、軒等を設けるもの</li> </ul>
	(ろ)	0.08以上0.11未満	4.65	
	(は)	0.11以上0.13未満	4.07	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガラスの日射熱取得率が0.49以下であるもの</li> <li>ガラスの日射熱取得率が0.74以下であるものに、ひさし、軒等を設けるもの</li> <li>付属部材（南±22.5度に設置するものについては、外付けブラインドに限る）を設けるもの</li> </ul>
	(に)	0.13以上	3.49	
8地域	(い)	0.08未満		<ul style="list-style-type: none"> <li>北±22.5度の方位を除く開口部に付属部材又はひさし、軒等を設けるもの</li> <li>付属部材又はひさし、軒等を設けるもの</li> </ul>
	(ろ)	0.08以上0.11未満		
	(は)	0.11以上0.13未満		
	(に)	0.13以上		



## 新仕様案

地域の区分	基準の水準	熱貫流率の基準値 (W/(m <sup>2</sup> ・K))	日射遮蔽対策の基準
1～3地域	誘導基準	1.9 樹脂サッシ・シングルLow-E三層複層ガラス(A14)	
	省エネ基準	2.3 樹脂サッシ・Low-E複層ガラス(A12)	
4地域	誘導基準	2.3 アルミ樹脂複合サッシ・Low-E複層ガラス(G14)	
	省エネ基準	3.5 アルミサッシ・Low-E複層ガラス(A9)	
5～7地域	誘導基準	2.3 アルミ樹脂複合サッシ・Low-E複層ガラス(G14)	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓の日射熱取得率が0.59以下であるもの</li> <li>ガラスの日射熱取得率が0.73以下であるもの</li> <li>付属部材を設けるもの</li> <li>ひさし、軒等を設けるもの</li> </ul>
	省エネ基準	4.7 アルミサッシ・複層ガラス(A6)	
8地域	誘導基準		<ul style="list-style-type: none"> <li>窓の日射熱取得率が0.53以下であるもの</li> <li>ガラスの日射熱取得率が0.66以下であるもの</li> <li>付属部材を設けるもの</li> <li>ひさし、軒等を設けるもの</li> </ul>
	省エネ基準		

※括弧内は、参考仕様

## 外壁、窓等を通しての熱の損失の防止に関する基準案(共同)

# 外皮の熱貫流率(U値)の基準案(共同、鉄筋コンクリート造等)

単位：W/(m<sup>2</sup>・K)

構造	部位		断熱材の 施工法	省エネ基準(現行仕様)					省エネ基準(新仕様案)					誘導基準(新仕様案)				
				1～2 地域	3 地域	4 地域	5～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4 地域	5～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4 地域	5～7 地域	8 地域
外皮平均熱貫流率 (8地域は冷房期の平均日射熱取得率)				0.46	0.56	0.75	0.87	(6.7)	0.46	0.56	0.75	0.87	(6.7)	0.40	0.50	0.60	(6.7)	
RC造	屋根又は天井		内断熱	0.27	0.35	0.37	1.18	0.38	0.55	0.75	0.92	1.18	0.29	0.40	0.56	1.18		
			外断熱 又は 両面断熱	0.32	0.41	0.43	1.26	0.40	0.57	0.77	0.94	1.26	0.31	0.42	0.58	1.26		
	壁		内断熱	0.39	0.49	0.75		0.47	0.70	0.97	0.97		0.43	0.62	0.70			
			外断熱 又は 両面断熱	0.49	0.58	0.86		0.63	0.86	1.13	1.13		0.59	0.78	0.86			
	床	外気に接 する部分	内断熱 又は 両面断熱	0.27	0.32	0.37		0.44	0.61	0.81	0.98		0.35	0.46	0.62			
			外断熱					0.27	0.44	0.64	0.81		0.18	0.29	0.45			
		その他 の部分	内断熱 又は 両面断熱	0.38	0.46	0.53		0.64	0.88	1.17	1.41		0.50	0.67	0.90			
			外断熱					0.40	0.64	0.93	1.17		0.26	0.43	0.66			
	土間床 等の外 周部分 の基礎 壁	外気に接 する部分		0.52	0.62	0.98		0.52	1.22	1.22	1.22		0.52	0.52	1.22			
		その他 の部分		1.38	1.60	2.36		1.38	3.08	3.08	3.08		1.26	1.26	2.54			

※両面断熱の基準値は新規設定

# 外皮の熱貫流率(U値)の基準案(共同、木造・鉄骨造)

単位：W/(m<sup>2</sup>・K)

構造	部位	省エネ基準(現行仕様)					省エネ基準(新仕様案)					誘導基準(新仕様案)				
		1～2 地域	3 地域	4 地域	5～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4 地域	5～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4 地域	5～7 地域	8 地域
外皮平均熱貫流率 (8地域は冷房期の平均日射熱取得率)		0.46	0.56	0.75	0.87	(6.7)	0.46	0.56	0.75	0.87	(6.7)	0.40	0.50	0.60	(6.7)	
木造 ・ 鉄骨造	屋根又は天井	0.17	0.24	0.24	0.99		0.41	0.58	0.76	0.93	0.99	0.28	0.47	0.58	0.99	
	壁	0.35	0.53	0.53			0.47	0.62	0.92	0.92		0.47	0.57	0.62		
	床	外気に接する部分	0.24	0.24	0.34			0.34	0.40	0.40	0.40		0.34	0.34	0.40	
		その他の部分	0.34	0.34	0.48			0.49	0.57	0.57	0.57		0.49	0.49	0.57	
	土間床等の 外周部分の 基礎壁	外気に接する部分	0.27	0.27	0.52			0.71	1.22	1.22	1.22		0.71	0.82	1.22	
		その他の部分	0.71	0.71	1.38			1.60	3.08	3.08	3.08		1.44	1.69	2.54	

# 断熱材の熱抵抗(R値)の基準案(共同、鉄筋コンクリート造等)

単位：m<sup>2</sup>・K/W

構造	部位	断熱材の 施工法	省エネ基準(現行仕様)				省エネ基準(新仕様案)					誘導基準(新仕様案)				
			1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4 地域	5～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域	
RC造	屋根又は天井	内断熱	3.6 (101mm)	2.7 (76mm)	2.5 (70mm)	0.62 (20mm)	2.5 (70mm)	1.6 (45mm)	1.2 (34mm)	0.9 (26mm)	0.7 (20mm)	3.3 (93mm)	2.3 (65mm)	1.6 (45mm)	0.7 (20mm)	
		外断熱 又は 両面断熱	3.0 (84mm)	2.2 (62mm)	2.0 (56mm)	0.57 (17mm)	2.3 (65mm)	1.6 (45mm)	1.1 (31mm)	0.9 (26mm)	0.6 (17mm)	3.1 (87mm)	2.2 (62mm)	1.6 (45mm)	0.6 (17mm)	
	壁	内断熱	2.3 (65mm)	1.8 (51mm)	1.1 (31mm)		1.9 (54mm)	1.2 (34mm)	0.8 (23mm)	0.8 (23mm)		2.1 (59mm)	1.4 (40mm)	1.2 (34mm)		
		外断熱 又は 両面断熱	1.8 (51mm)	1.5 (42mm)	0.9 (26mm)		1.4 (40mm)	1.0 (28mm)	0.7 (20mm)	0.7 (20mm)		1.5 (42mm)	1.1 (31mm)	1.0 (28mm)		
	床	外気に接 する部分	内断熱 又は 両面断熱	3.2 (90mm)	2.6 (73mm)	2.1 (59mm)		2.0 (56mm)	1.4 (40mm)	1.0 (28mm)	0.8 (23mm)		2.6 (73mm)	1.9 (54mm)	1.4 (40mm)	
			外断熱					3.5 (98mm)	2.0 (56mm)	1.3 (37mm)	1.0 (28mm)		5.3 (149mm)	3.2 (90mm)	2.0 (56mm)	
		その他 の部分	内断熱 又は 両面断熱	2.2 (62mm)	1.8 (51mm)	1.5 (42mm)		1.2 (34mm)	0.8 (23mm)	0.5 (14mm)	0.4 (12mm)		1.7 (48mm)	1.1 (31mm)	0.8 (23mm)	
			外断熱					2.2 (62mm)	1.2 (34mm)	0.7 (20mm)	0.5 (14mm)		3.5 (98mm)	2.0 (56mm)	1.2 (34mm)	
	土間床 等の外 周部分 の基礎 壁	外気に接 する部分	内断熱 及び 外断熱	1.7 (48mm)	1.4 (40mm)	0.8 (23mm)		1.7 (48mm)	0.6 (17mm)	0.6 (17mm)	0.6 (17mm)		1.7 (48mm)	1.7 (48mm)	0.6 (17mm)	
		その他 の部分	内断熱 及び 外断熱	0.5 (14mm)	0.4 (12mm)	0.2 (6mm)		0.5 (14mm)	0.1 (3mm)	0.1 (3mm)	0.1 (3mm)		0.5 (14mm)	0.5 (14mm)	0.1 (3mm)	

※両面断熱の基準値は新規設定

※括弧内の参考値は、断熱材を押し出法ポリスチレンフォーム保温板3種(λ=0.028W/m・K)とした場合に必要な厚さ

# 断熱材の熱抵抗(R値)の基準案(共同、木造(充填断熱工法))

単位：m<sup>2</sup>・K/W

構造	部位	省エネ基準(現行仕様)				省エネ基準(新仕様案)					誘導基準(新仕様案)				
		1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4 地域	5～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域	
木造 (充填)	屋根	6.6 (251mm)	4.6 (175mm)	4.6 (175mm)	0.96 (38mm)	2.9 (111mm)	2.0 (76mm)	1.4 (54mm)	1.1 (42mm)	1.0 (38mm)	4.4 (168mm)	2.5 (95mm)	2.0 (76mm)	1.0 (38mm)	
	天井	5.7 (217mm)	4.0 (152mm)	4.0 (152mm)	0.78/ 0.89 (31/35 mm)	2.3 (88mm)	1.6 (61mm)	1.1 (42mm)	0.9 (35mm)	0.8 (31mm)	3.4 (130mm)	2.0 (76mm)	1.6 (61mm)	0.8 (31mm)	
	壁	3.3/3.6 (126/137 mm)	2.2/2.3 (84/88 mm)	2.2/2.3 (84/88 mm)		2.5 (95mm)	1.8 (69mm)	1.1 (42mm)	1.1 (42mm)		2.5 (95mm)	2.1 (80mm)	1.8 (69mm)		
	床	外気に接 する部分	5.2/4.2 (198/160 mm)	5.2/4.2 (198/160 mm)	3.3/3.1 (126/118 mm)		3.4 (130mm)	2.9 (111mm)	2.9 (111mm)	2.9 (111mm)		3.4 (130mm)	3.4 (130mm)	2.9 (111mm)	
		その他の 部分	3.3/3.1 (126/118 mm)	3.3/3.1 (126/118 mm)	2.2/2.0 (84/76 mm)		2.1 (80mm)	1.7 (65mm)	1.7 (65mm)	1.7 (65mm)		2.1 (80mm)	2.1 (80mm)	1.7 (65mm)	
	土間床等 の外周部 分の基礎 壁	外気に接 する部分	3.5 (98mm)	3.5 (98mm)	1.7 (48mm)		1.2 (34mm)	0.6 (17mm)	0.6 (17mm)	0.6 (17mm)		1.2 (34mm)	1.0 (28mm)	0.6 (17mm)	
		その他の 部分	1.2 (34mm)	1.2 (34mm)	0.5 (14mm)		0.4 (12mm)	0.1 (3mm)	0.1 (3mm)	0.1 (3mm)		0.4 (12mm)	0.3 (9mm)	0.1 (3mm)	

※現行仕様で併記している数値は、軸組/枠組壁の基準値。括弧内の参考値は、高性能グラスウール16K相当(λ=0.038W/m・K、基礎壁を除く)、押出法ポリスチレンフォーム保温板3種(λ=0.028W/m・K、基礎壁)とした場合に必要の厚さ

# 断熱材の熱抵抗(R値)の基準案(共同、木造・鉄骨造(外張断熱工法・内張断熱工法))

単位：m<sup>2</sup>・K/W

構造	部位	省エネ基準(現行仕様)				省エネ基準(新仕様案)					誘導基準(新仕様案)				
		1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4 地域	5～7 地域	8 地域	1～2 地域	3 地域	4～7 地域	8 地域	
木造 ・ 鉄骨造  (外張 ・ 内張)	屋根又は天井	5.7 (160mm)	4.0 (112mm)	4.0 (112mm)	0.78 (23mm)	2.5 (70mm)	1.7 (48mm)	1.2 (34mm)	1.0 (28mm)	0.9 (26mm)	3.7 (104mm)	2.1 (59mm)	1.7 (48mm)	0.9 (26mm)	
	壁	2.9 (82mm)	1.7 (48mm)	1.7 (48mm)		2.2 (62mm)	1.6 (45mm)	1.0 (28mm)	1.0 (28mm)		2.2 (62mm)	1.8 (51mm)	1.6 (45mm)		
	床	外気に 接する部分	3.8 (107mm)	3.8 (107mm)	2.5 (70mm)		3.1 (87mm)	2.6 (73mm)	2.6 (73mm)	2.6 (73mm)		3.1 (87mm)	3.1 (87mm)	2.6 (73mm)	
		その他の 部分													
	土間床等 の外周部 分の基礎 壁	外気に 接する部分	3.5 (98mm)	3.5 (98mm)	1.7 (48mm)		1.2 (34mm)	0.6 (17mm)	0.6 (17mm)	0.6 (17mm)		1.2 (34mm)	1.0 (28mm)	0.6 (17mm)	
		その他の 部分	1.2 (34mm)	1.2 (34mm)	0.5 (14mm)		0.4 (12mm)	0.1 (3mm)	0.1 (3mm)	0.1 (3mm)		0.4 (12mm)	0.3 (9mm)	0.1 (3mm)	

※括弧内の参考値は、押出法ポリスチレンフォーム保温板3種(λ=0.028W/m・K)とした場合に必要な厚さ

# 断熱材の熱抵抗(R値)の基準案(共同、鉄骨造(充填断熱工法)の壁)

単位：m<sup>2</sup>・K/W


構造	外装材の熱抵抗	一般部の断熱層を貫通する金属部材の有無	断熱材を施工する箇所の区分	省エネ基準(現行仕様)				省エネ基準(新仕様案)				誘導基準(新仕様案)			
				1～2地域	3地域	4～7地域	8地域	1～2地域	3地域	4～7地域	8地域	1～2地域	3地域	4～7地域	8地域
鉄骨造(充填)	0.56以上 <small>(新仕様は0.5以上)</small>	無	柱、梁	1.91 (107mm)	0.63 (36mm)	0.08 (5mm)		1.2 (68mm)	1.2 (68mm)	0.4 (23mm)		1.2 (68mm)	1.2 (68mm)	1.2 (68mm)	
			一般部	2.12 (81mm)	1.08 (42mm)	1.08 (42mm)		1.5 (57mm)	1.0 (38mm)	1.0 (38mm)		1.5 (57mm)	1.2 (46mm)	1.0 (38mm)	
		有	一般部	3.57 (136mm)	2.22 (85mm)	2.22 (85mm)		2.5 (95mm)	2.0 (76mm)	1.9 (73mm)		2.5 (95mm)	2.1 (80mm)	2.0 (76mm)	
			金属部材	0.72 (28mm)	0.33 (13mm)	0.33 (13mm)		0.7 (27mm)	0.3 (12mm)	0.3 (12mm)		0.7 (27mm)	0.5 (19mm)	0.3 (12mm)	
	0.15以上 0.56未満 <small>(新仕様は0.1以上0.5未満)</small>	無	柱、梁	1.91 (107mm)	0.85 (48mm)	0.31 (18mm)		1.6 (90mm)	1.6 (90mm)	0.8 (45mm)		1.6 (90mm)	1.6 (90mm)	1.6 (90mm)	
			一般部	2.43 (93mm)	1.47 (56mm)	1.47 (56mm)		1.9 (73mm)	1.4 (54mm)	1.4 (54mm)		1.9 (73mm)	1.6 (61mm)	1.4 (54mm)	
		有	一般部	3.57 (136mm)	2.22 (85mm)	2.22 (85mm)		3.0 (114mm)	2.4 (92mm)	2.3 (88mm)		3.0 (114mm)	2.5 (95mm)	2.4 (92mm)	
			金属部材	1.08 (42mm)	0.50 (19mm)	0.50 (19mm)		1.2 (46mm)	0.7 (27mm)	0.7 (27mm)		1.2 (46mm)	0.9 (35mm)	0.7 (27mm)	
	0.15未満 <small>(新仕様は0.1未満)</small>	無	柱、梁	1.91 (107mm)	1.27 (72mm)	0.63 (36mm)		1.7 (96mm)	1.7 (96mm)	0.9 (51mm)		1.7 (96mm)	1.7 (96mm)	1.7 (96mm)	
			一般部	3.00 (114mm)	1.72 (66mm)	1.72 (66mm)		2.0 (76mm)	1.5 (57mm)	1.5 (57mm)		2.0 (76mm)	1.7 (65mm)	1.5 (57mm)	
		有	一般部	3.57 (136mm)	2.22 (85mm)	2.22 (85mm)		3.1 (118mm)	2.5 (95mm)	2.4 (92mm)		3.1 (118mm)	2.6 (99mm)	2.5 (95mm)	
			金属部材	1.43 (55mm)	0.72 (28mm)	0.72 (28mm)		1.3 (50mm)	0.8 (31mm)	0.8 (31mm)		1.3 (50mm)	1.0 (38mm)	0.8 (31mm)	

※括弧内の参考値は、吹付けロックウール(λ=0.056W/m・K、柱、梁)、高性能グラスウール16K相当(λ=0.038W/m・K、柱、梁を除く)とした場合に必要の厚さ




# 開口部の熱貫流率と日射遮蔽対策の基準(共同)

## 現行仕様

地域の区分	開口部比率の区分	開口部比率	熱貫流率の基準値 (W/(m <sup>2</sup> ・K))	日射遮蔽対策の基準
1~2地域	(い)	0.05未満	2.91	
	(ろ)	0.05以上0.07未満	2.33	
	(は)	0.07以上0.09未満	1.90	
	(に)	0.09以上	1.60	
3地域	(い)	0.05未満	2.91	
	(ろ)	0.05以上0.07未満	2.33	
	(は)	0.07以上0.09未満	1.90	
	(に)	0.09以上	1.60	
4地域	(い)	0.05未満	4.07	
	(ろ)	0.05以上0.07未満	3.49	
	(は)	0.07以上0.08未満	2.91	
	(に)	0.08以上	2.33	
5~7地域	(い)	0.05未満	6.51	
	(ろ)	0.05以上0.07未満	4.65	
	(は)	0.07以上0.08未満	4.07	
	(に)	0.08以上	3.49	
8地域	(い)	0.05未満	• 北±22.5度の方位を除く開口部に付属部材又はひさし、軒等を設けるもの	
	(ろ)	0.05以上0.07未満		
	(は)	0.07以上0.08未満		
	(に)	0.08以上		

## 新仕様案

地域の区分	基準の水準	熱貫流率の基準値 (W/(m <sup>2</sup> ・K))	日射遮蔽対策の基準	
1~2地域	誘導基準	<b>1.9</b> (アルミサッシ・単板ガラス + 樹脂サッシ・Low-E複層ガラス(A6))		
	省エネ基準	<b>2.3</b> (アルミサッシ・単板ガラス + 樹脂サッシ・複層ガラス(A6))		
3地域	誘導基準	<b>2.3</b> (アルミサッシ・単板ガラス + 樹脂サッシ・複層ガラス(A6))		
	省エネ基準	(アルミサッシ・単板ガラス + 樹脂サッシ・複層ガラス(A6))		
4地域	誘導基準	<b>2.9</b> (アルミ樹脂複合サッシ・Low-E複層ガラス(A9))		
	省エネ基準	<b>3.5</b> (アルミサッシ・Low-E複層ガラス(A9))		
5~7地域	誘導基準	<b>2.9</b> (アルミ樹脂複合サッシ・Low-E複層ガラス(A9))		
	省エネ基準	<b>4.7</b> (アルミサッシ・複層ガラス(A6))		
8地域	誘導基準	(アルミサッシ・単板ガラス + 樹脂サッシ・複層ガラス(A6))		北±22.5度の方位を除く開口部に次のいずれかの対策を講ずるもの <ul style="list-style-type: none"> <li>• 窓の日射熱取得率が0.52以下であるもの</li> <li>• ガラスの日射熱取得率が0.65以下であるもの</li> <li>• 付属部材を設けるもの</li> <li>• ひさし、軒等を設けるもの</li> </ul>
	省エネ基準			

※括弧内は、参考仕様

## 一次エネルギー消費量に関する基準案(戸建・共同共通)

## 暖房設備の仕様基準案(戸建・共同共通)

### 省エネ基準の水準

項目		仕様
単位住戸全体を暖房する方式		ダクト式セントラル空調機であって、次の省エネルギー対策を講ずること <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒートポンプ式熱源を採用すること（標準的な設備）</li> </ul>
居室のみを暖房する方式	連続運転	1～4地域にあつては、次のいずれかの熱源機を用いた温水暖房用パネルラジエーターであつて、配管に断熱被覆があるもの <ul style="list-style-type: none"> <li>石油熱源機であつて熱効率が83.0%以上であるもの（標準的な設備）</li> <li>ガス熱源機であつて熱効率が78.9%以上であるもの</li> <li>電気ヒートポンプ熱源機（フロン系冷媒に限る）</li> </ul> 5～7地域にあつては、次のいずれかの熱源機を用いた温水暖房用パネルラジエーターであつて、配管に断熱被覆があるもの <ul style="list-style-type: none"> <li>石油熱源機であつて熱効率が87.8%以上であるもの</li> <li>ガス熱源機であつて熱効率が82.5%以上であるもの（標準的な設備）</li> <li>電気ヒートポンプ熱源機（フロン系冷媒に限る）</li> </ul>
	間歇運転	1～4地域にあつては、次のいずれかの暖房機器を採用すること <ul style="list-style-type: none"> <li>FF暖房機であつて熱効率が86.0%以上であるもの（標準的な設備）</li> <li>区分（ろ）※1以上のルームエアコンディショナーを採用すること</li> </ul> 5～7地域にあつては、次の暖房機器を採用すること <ul style="list-style-type: none"> <li>区分（ろ）※1以上のルームエアコンディショナーを採用すること（標準的な設備）</li> </ul>

※ 下線部は現行仕様から追加した項目 ※1（国研）建築研究所 技術情報（住宅）第4章「暖冷房設備」第3節「ルームエアコンディショナー」による区分

### 誘導基準の水準

項目		仕様
単位住戸全体を暖房する方式		ダクト式セントラル空調機であつて、次のすべての省エネルギー対策を講ずること <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒートポンプ式熱源を採用すること</li> <li>VAV方式を採用すること</li> <li>ダクトが通過する空間がすべて断熱区画内であること</li> <li>熱交換型換気設備を採用すること</li> </ul>
居室のみを暖房する方式	連続運転	次のいずれかの熱源機を用いた温水暖房用パネルラジエーターであつて、配管に断熱被覆があるもの <ul style="list-style-type: none"> <li>潜熱回収型の石油熱源機</li> <li>潜熱回収型のガス熱源機</li> <li>電気ヒートポンプ熱源機（フロン系冷媒に限る）</li> </ul>
	間歇運転	区分（い）※1のルームエアコンディショナーを採用すること ※1 地域及び2 地域にあつては、熱交換型換気設備を採用すること

※1（国研）建築研究所 技術情報（住宅）第4章「暖冷房設備」第3節「ルームエアコンディショナー」による区分

## 冷房設備の仕様基準案(戸建・共同共通)

### ・ 省エネ基準の水準

項目		仕様
単位住戸全体を冷房する方式		ダクト式セントラル空調機であって、次の省エネルギー対策を講ずること <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒートポンプ式熱源を採用すること（標準的な設備）</li> </ul>
居室のみを冷房する方式	間歇運転	区分（ろ）※1以上のルームエアコンディショナーを採用すること（標準的な設備）

※ 下線部は現行仕様から追加した項目 ※1（国研）建築研究所 技術情報（住宅）第4章「暖冷房設備」第3節「ルームエアコンディショナー」による区分

### ・ 誘導基準の水準

項目		仕様
単位住戸全体を冷房する方式		ダクト式セントラル空調機であって、次のすべての省エネルギー対策を講ずること <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒートポンプ式熱源を採用すること</li> <li>VAV方式を採用すること</li> <li>ダクトが通過する空間がすべて断熱区画内であること</li> </ul>
居室のみを冷房する方式	間歇運転	区分（い）※1のルームエアコンディショナーを採用すること

※1（国研）建築研究所 技術情報（住宅）第4章「暖冷房設備」第3節「ルームエアコンディショナー」による区分

## 機械換気設備の仕様基準案(戸建・共同共通)

### 省エネ基準の水準

#### 仕様

換気回数0.5回/hを必要とする住宅※1の場合において、次のいずれかの省エネルギー対策を講ずること

- 比消費電力（熱交換換気設備を採用する場合にあっては、比消費電力を有効換気量率で除した値）が0.3W/(m<sup>3</sup>/h)以下の換気設備を採用すること（標準的な設備）
- 内径75mm以上のダクトを使用したダクト式第一種換気設備であって、DCモーターを採用すること
- 内径75mm以上のダクトを使用したダクト式第二種換気設備又はダクト式第三種換気設備を採用すること
- 壁付け式第二種換気設備又は壁付け式第三種換気設備を採用すること

※ 下線部は現行仕様から追加した項目 ※1 建築基準法施行令第20条の7第1項第2号の表における「その他の居室」のみの住宅

### 誘導基準の水準

#### 仕様

換気回数0.5回/hを必要とする住宅※1で熱交換型換気設備を採用しない場合にあっては、次のいずれかの省エネルギー対策を講ずること

- 比消費電力が0.3W/(m<sup>3</sup>/h)以下の換気設備を採用すること
- 内径75mm以上のダクトを使用したダクト式第一種換気設備であって、DCモーターを採用すること
- 内径75mm以上のダクトを使用したダクト式第二種換気設備又はダクト式第三種換気設備を採用すること
- 壁付け式第二種換気設備又は壁付け式第三種換気設備を採用すること

換気回数0.5回/hを必要とする住宅※1で熱交換型換気設備を採用する場合にあっては、次のすべての省エネルギー対策を講ずること

- 内径75mm以上のダクトを使用した有効換気量率が0.8以上のダクト式第一種換気設備であって、DCモーターを採用すること
- 熱交換型換気設備の温度交換効率が70%以上であること

※1 建築基準法施行令第20条の7第1項第2号の表における「その他の居室」のみの住宅

## 照明設備の仕様基準案(戸建・共同共通)

- 省エネ基準の水準

### 仕様

非居室に白熱灯又はこれと同等以下の性能の照明設備を採用しないこと（標準的な設備）

- 誘導基準の水準

### 仕様

すべての照明設備にLEDを採用すること

## 給湯設備の仕様基準案(戸建・共同共通)

### 省エネ基準の水準

仕様	
1～4地域にあっては、次の給湯機を採用すること	
<ul style="list-style-type: none"> <li>石油給湯機であって、モード熱効率が81.3%以上であるもの（標準的な設備）</li> <li><u>ガス給湯機であって、モード熱効率が83.7%以上であるもの</u></li> <li><u>電気ヒートポンプ給湯機（CO2冷媒に限る）であって、年間給湯保温効率又は年間給湯効率が1地域において3.5以上、2地域において3.2以上、3地域において3.0以上、4地域において2.9以上のものに限る）</u></li> </ul>	
5～8地域にあっては次の給湯機を採用すること	
<ul style="list-style-type: none"> <li><u>石油給湯機であって、モード熱効率が77.8%以上であるもの</u></li> <li>ガス給湯機であって、モード熱効率が78.2%以上であるもの（標準的な設備）</li> <li><u>電気ヒートポンプ給湯機（CO2冷媒に限る）</u></li> </ul>	

※下線部は現行仕様から追加した項目

### 誘導基準の水準

項目	仕様
給湯機	次のいずれかの給湯機を採用し、かつ所定の省エネルギー対策を講ずること <ul style="list-style-type: none"> <li>石油給湯機であって、モード熱効率が84.9%※1以上であるもの（1～7地域に限る）</li> <li>ガス給湯機であって、モード熱効率が86.6%※1以上であるもの（1～7地域に限る）</li> <li>電気ヒートポンプ給湯機（CO2冷媒に限る）であって、年間給湯保温効率又は年間給湯効率が3.3以上</li> </ul>
省エネ対策	次のすべての省エネルギー対策を講ずること <ul style="list-style-type: none"> <li>ヘッダー方式でヘッダー分岐後のすべての配管径が13A以下であること</li> <li>浴室シャワー水栓に手元止水機能及び小流量吐水機能を有する節湯水栓を採用すること</li> <li>高断熱浴槽を採用すること</li> </ul>

※1 エネルギー消費効率93%をモード熱効率に換算した値